

2024年11月17日(日) 14:00 開演

劇団名/MUNA-POCKET COFFEEHOUSE

作品名/紙。

会場/クリエート浜松 2階ホール

キャスト A versionにて

劇評/

「認識とは、つまるところ何なのか」。正面から、斜めから、後退的に、前衛的に、ありきなりに。どの角度から認識するかによって、全く違うものに見える。

哲学的にも思えるテーマを、「紙。」を媒介に具現化しようとする試みは面白かった。

また、共通認識への誘いとして、紙飛行機を投げる・具体名を叫ぶ・役者が観客にセリフを投げかけるなど、様々な試みをされていて、「やろうとする」事はよく理解できた。

ただし、冒頭からのスベリがしばし続いたり、紙飛行機が観客の頭や体に当たり散らしたり、残念ながら世界観に没入しきれない演出が残念だった。

そのカバーを、正直想像していた以上の玄人な役者陣が、雰囲気を感じ取り、現場の波をつかもうとする様は、とても爽快で、会場を埋め尽くした理由が良くわかった。

事前予習をせず伺ったため、キャスト A とキャスト B がいる事を知らず、また公演の様子から演出を変更するとのアナウンスがあったが、その回を時間都合で観られなかったので、この方法の是非は控えたいと思う。

最後に「紙。」を題材に認識を表現しようとする中で、「紙」の事を深く調べられていない、大切に感じていないように思えたのが残念だった。

深く知り、大切に思うのであれば、きっとこの公演の PR や演出の仕方は、もっと違うものになったはずだと、オールドメディアに携わる者の観点からは感じざるを得なかった。